

9年前の阪神淡路大震災直後の救助作業中に、倒壊した家屋の地下からたくさんの武器庫が見つかったとされる。当時から、消息筋の噂話として私自身、耳に挟んできたがこの事実は、現在、多くの信頼できるソースで語られている。

そこ（多数の地下武器庫）には、2001年の奄美大島沖「不審船事件」で、北朝鮮工作船に搭載されていたものと同クラスの武器（ロケット砲や無反動砲、機関銃）も多数隠されていた。

あとき工作船が沈没寸前に放ったロケット弾（や無反動砲）はもし命中すれば、数十人の乗組員を乗せた海上保安庁の巡視船を轟沈させるほどの威力をもっている。

それほどの破壊力を持つ兵器が人知れず日本の大都会の一角に大量に貯蔵されている。いまも同じような武器庫が日本国内に多数存在すると見られている。

ひとたび戦時になればこれら大量の武器庫群から、（ロケット砲・無反動砲、機関銃など）これらの大量破壊兵器を大量に取り出した破壊分子が日本の大都市を走り回することは十分予測できる。しかもその勢力が如何なる外国に結びつくか、その答えは困難でない。

この日本国内、それもまさに我々のすぐ隣に潜んでいる。日本の、それも東京や大阪など大都市がれっきとした戦闘地域なのである。このことを我々は片時も忘れてはならない。

いまや日本は国内における（重火器による大規模な攻撃）テロ、（本格的に武装した）ゲリラ行為に文字通り、本格対処すべき時代に来ているのである